

あなたの「ふるさと高岡」



一、朝日かがやき きらめく景色

人のぬくもり 温かい

風は季節を 連れてくる

四季の花々 キラキラと

輝きはじめる この自然

おごそかに たおやかに

万葉の歌が 聞こえるよ

愛おしい街 たまらない

わがふるきとは 高岡市

二、青空まぶしく ひろがる自然

みどりかがやき 抱きあう

自然は夢を 連れてくる

四季の笑顔 キラキラと

潤いはじける ときめきよ

心優しく 揺るぎない

潮騒は歌うよ 雨晴海岸

愛おしい街 煌めいて

わがふるきとは 高岡市

一、昔、今も 変わらぬ街

仰ぎ見る山は白い 越えて立つ

『立山に降りおける雪を

常夏に 見れども飽かず

神からならし』

季節めぐり 歴史続く

それこそが ふるさと高岡

いとをかし 山よ

仰ぐ 高岡

二、昔、今も 変わらぬ街

輝く海は青い 浜をゆく

『うまなめて いざうち行かな

しぶたにの 清きいそみに

寄する波見に』

自然の恵み 命生まれ

それこそが ふるさと高岡

いとをかし 海よ

光る 高岡

一、二上山 もみじの照る日
生かされる命と 鐘を撞く
いにしえもかわらぬ景色
深き思いの心
家持もまた歌を詠む

万葉集にその名あり
それこそがふるさと高岡
ゆかしき街よ
山を仰ぐよ

二、海の向こう 立山そびえ
気嵐湧き立つ 雨晴
追ってのがれて雨宿り
義経岩は残る
道の駅から見下ろせば

ハットリくんの電車行く
それこそがふるさと高岡
ゆかしき街よ
海を愛でるよ



一、二上のふもと 美しき町に

自然のめぐみ 私の生れし町

光り輝く 若葉の

古城の森に子らの声が

そよ風にのって 飛ぶよ

心安らぐわが家

ここが私のふるさと高岡

愛する家族が

皆々笑うよ

二、万葉の里 すてきな町に

清流流るる 小矢部川

自然にとけ込み 生きる町

きらびやか御車山のお囃子が

五月の風にのって 響くよ

心安らぐ町並み

そこが私のふるさと高岡

友の輪広がる

皆々歌うよ

一、雪がとけて 春風が吹く

あたたかな日差し あたたかな人

古城の桜が満開の頃

たくさんの出会いに心弾ませ

愛と希望 胸に抱くよ

揺れるおりんの音色が響く

志は高くあろうと眺めるは

威風堂々

立山連峰

二、秋さらば もみじ美し

二上の山に 歴史感じる

思いはせるは 万葉の里

しんしんと降る

雪は豊年の瑞しろし

季節は巡り 移りゆく

されど変わらぬ温かな人々

いつも変わらぬ

ふるさと高岡

一、いにしえごと 思いはせ
台地の上には 都みやこ広がる
八十やそ娘子おとめらの 笑い声
桃の花の かぐわしさ
見つめて楽し 貴公子

寄せる波に 望み託す
それこそが ふるさと高岡
はじまりの街よ
ここで立つよ

二、新たな町 縁えにしの結び
ものづくりの心 生まれる
鉄壁の誇り 胸に秘め
商人あきないびと 理ことわりを尽くす
見つめ通す 美男子

高き丘おかに 込めた想い
それこそが ふるさと高岡
こころの街よ
ここで生きるよ

一、 I LOVE YOU ふるさと高岡

白銀の立山連峰 夕日に映える稲葉山

宴に誘う射水川

家持と大嬢おおむつめの恋の里

堅香子カタカゴを摘む娘女達おとめ

鳥も舞あがる二上山

笛、太鼓、エー祭りパヤシ囃子

二、 I LOVE YOU ふるさと高岡

朝焼の有磯海 光りとカゲロウの雨晴

義経と弁慶の逃避行

祈る大仏、目の光り、

未来羽ばたく新幹線

イノベーシヨン、ハートはおどる

笛、太鼓、エー祭りパヤシ囃子

一、愛する街 おしえてほしい
鳳凰が降り立つまちに 何がある
高岡大仏の笑みは
街の幸せ願ひ
伝統の銅器でつくる

キミにもきつと伝えるから
これからの ふるさと高岡
うるわしい街よ
ここに集うよ

二、二上山 紅葉そびえ
豊かな自然にはスゲー(菅)の声
万葉集を引き継いで
まだまだ書き足される
あらたな物語となる

未来はボクを待っているよ
これからの ふるさと高岡
たのしい街よ
ここに創るよ

一、古城の森に 桜が咲き
ふるさと高岡に 春告げて
5月1日の御車山は七基の山車やまがめぐり
高岡の歴史伝え

村には田の 山には緑
かがやき ふるさと高岡
四季はめぐるよ
ここは高岡

二、雨晴の海に 朝日がのぼり
今日の1日も はじまる
万葉の歌に 家持が詠んだ
二上山をながめて

人を愛し 技を伝え
みな共にある ふるさと高岡
越中の地よ
ここはふるさと

一、大仏まなざし円光背の
照すあたりは桜の古城
街はあかるく人みなやさしく
銅器漆器管笠造り
冴える匠の技伝えゆき

街に響けり祭り囃し
御車山曳く勇むかけ声
「夕日」の歌声元気な子どもら
やさしい高岡幸多し

二、朝雲たなびく二上山に
木洩日ひかり咲く堅香子の花
万葉の里眼下にひらけ
清き流れの射水川雄神川
沃野の田畑歴史の大地

瑞龍寺勝興寺有磯海
湾に影さす立山連峰
女岩に寄する麗し白波
きれいな高岡夢多し

一、 温もりのある街 高岡

澄みわたる空に映える二上山

清らかな風に古城の

桜吹雪が舞う

愛すべき人がいる街

幼き頃から親しんだ

どれも心の安らぎを

与えてくれる

ふるさとの景色

二、 いにしえの都 高岡

幻想的に光が彩る瑞龍寺

歴史を受け継ぐ文化

すてきな町並み

守るべき伝統の街

お祭り花火多くの歓声

どれも心を明るく

元気にしてくれる

ふるさとの想い出

一、万葉人が詠んでくれた
自然豊かな情景を そのままに
今も見ることができる
緑の二上山ふたかみやま
青と白の雨晴

万葉ゆかり 故地をめぐり
それこそが ふるさと高岡
美しい街よ
ここで思うよ

二、高岡城の利長公が
銅器製造ものづくり 金屋町

御車山の山町やまぢやう
皆なの平和を祈り
高岡大仏見守るよ

伝統 技術 文化花咲く
それこそが ふるさと高岡
息づく街よ
ここで受け継ぐよ



一、いにしへの射水川

ながむるほとり

万葉びとも思いたる

我がふるさとの桜花

いつまでもとこしえに

楽しく集う我が町の

生き生き語る誇りおぼ

いつまでもいつまでも

かがやけり

二、さまのこ並ぶ我が町に

ふいごの音のたくましさ

鑄物の技を伝えつつ

次の子らを愛しみ

古き良き道伝えんと

町の歴史に思いをはせ

いつも暖かく見守る二上山

地域のちから信じつつ

皆で作ろう絆の輪

一、港町へ薰風ふいて

祭り囃し奏で花の山車

老いも若きもはやり出す

もちまきに湧く通り

あざやかにゆく路地の角

今日のために尽くしてきた

それこそがふるさと高岡

楽しい街よ

ここで笑うよ

二、提灯つけ七つそろって

かっちゃへと繰り出すけんか山

おのれの町の誇りもち

拍子木高く鳴って

いやさいやさと山車を曳く

祭りを継ぐ人の心

それこそがふるさと高岡

雄々しい街よ

時を繋ぐよ

一、愛しい人 大切な人

いっしょに感じたいふるさと
春の古城公園は

あたたかな色に染まる

手をつないで 語らいたい

きっとあなたも ほほえむね

この町で暮らすおだやかな日

幸せともに

ふるさと高岡

二、夜にともす 七夕の灯

あざやかな町に心踊る

たくみの技が あふれる

古き街並 人の声

みんなの誇りが 光るよ

彩やかな日々 笑顔くれる

この町で生まれる思い出

幸せともに

ふるさと高岡



一、短冊揺れ 提灯ともる
歩行者天国 そぞろゆく
そろいの浴衣 町流し
末広町のとおり
願ひ七夕 見上げてる

八月の夜よ 更ふけていくよ
それこそがふるさと高岡
輝く街よ
ここで願うよ

二、濠に浮かぶ 水上舞台
天平人となる 装束は
万葉集の 全巻を
三日三晩 休まず
朗唱うたの会 詠うたい継ぐ

古城の道 秋風吹く
それこそがふるさと高岡
緑の街よ
ここで憩うよ

一、春来れば 菜の花畑にチューリップ
色とりどりの花たちに
みんなの笑顔も 咲きほこる
夏の夜は 大小七夕風にゆれ
小さな町を彩るよ
願いを込める 短冊に
行きたくなるね あの町へ
みんなおいでよ 戸出町

二、秋祭り 幌武者行列 圧巻だ
立派なひげの武将らに
神様獅子も びっくりだ
冬来たら 餅つき大会 鍋祭り
みんなで囲む 大鍋に
自然と心も温まる
ほっとしたいね あの町で
みんな大好き 戸出町



一、さくらにそまる 空と街と人が

せせらぐ岸渡で 微笑む

小鳥たちの歌声が

風にのり ささやいて

わたしの心 躍らすよ

誰もがきつと 帰るところ

それこそが ふるさと高岡

いとしい街よ

ここで歌うよ

二、瞳に映る 時代と記憶

モノトーン魅力的なカメラ館

菅笠踊りに 秋の日は

つくりもんで 楽しんで

鯉・恋・来いよ 福岡へ

愛する人 共に生きる

それこそがふるさと高岡

やさしい街よ

ここで祈るよ



一、西陵のおだやかな

城ヶ平山よ

いにしえの殿様住みし処
そのふもと 群生するや
かたかごの花かれんなり

花紫とまだらな緑の葉

のコントラスト

すてきに咲きほこれり

白いいちげ草を仲間として

二、真夏の暑さに汗して育てる

青きスゲ草

扇に広げて干せば

白きに変身 竹材の笠骨

に縫われた菅の笠

小矢部の川の恵受けて

こしひかりのうまき処

わがふるさと高岡

赤丸の地よ

一、小矢部の流れ たゆむ日なく
緑の広がる田園 西山丘陵
豊かな自然が育くむ
父も母も子も孫も
未来の高岡切り拓く

大地の力に愛のスパイス
それこそが元気の源
さあ輪になって
りんごを食べよう



二、国吉のお米 今日もおかわり
どんなおかずにもぴたりと合う
伝説歴史が 色濃く
子どもたちに受け継いで
未来の国吉 きらめくよ

大好きな人 自然に集まる
のどかな野山 風そよぐ
太陽があたたかく
日なたでまどろむ

一、道の駅「雨晴」に

一度は訪れてみないか
家持、芭蕉が歌詠んで
義経は雨しのぎ
とおくへ想い馳せるよ

富山湾越しの立山連峰

海岸線を走る「べるもんた」

希少な気嵐

みんなで望もう

二、もういちど7歳目で

この世界を見てみないか

「高岡熱中寺子屋」

大人たちの学び場

ワクワクする出合いがあるよ

会場は皆知ってる場所

それは国宝瑞龍寺

みんなで行こう

一緒に学ぼう

一、今日も走るよ 万葉線

万葉のふるさとに 和歌響く

雨晴の海と風は

世界に誇る景色

あなたのすぐそばに

人と自然 ふれあうところ

それこそがふるさと高岡

ゆたかな街よ

ここで生きるよ

一、子どもたちよ おしえてほしい
故郷になるこの町の すきなところ
二上山から望む
工場群のひかりは
この町がもつエネルギー

誰もがきつと帰るところ
それこそが ふるさと高岡
底力を見せよう
ここで生きるよ



一、魂込めた 熱き品々が
美しくみせられた ショーウィンドー
人々が 笑顔で
ゆきかう 高町 商店街

お買い物で 幸せ 分ちあう
それこそが ふるさと高岡
いとしい街よ
ここで買うよ

二、四季おりおりに 変化する
素敵な姿 幾度訪れても
新たな感銘受ける 古城公園

散策する人の姿も 晴れやかに
それこそが ふるさと高岡
いとしい街よ
ここで集うよ

一、旬の香り 法蓮草

玉ねぎ 人参 大根 里いも

ビタミン ミネラル カルシウム

健康育む 地産地消

いただきます おいしい給食

子供たちが もりもり食べる

自然の恵み ふるさと高岡

いとしい街よ

ここで育つよ



二、頬にいっぱい 元気コロッケ

グリーンラーメン 湯気が立つ

キャベツ ピーマン カラフルソテー

新鮮野菜 感謝の心

いただきます 楽しい給食

子供たちが豊かに生きる

命の源 ふるさと高岡

やさしい街よ

ここで育つよ

一、冬の朝は 早起きして

海への道を ゆっくり歩くよ

立山連峰の光

白いくもがゆらめいて

ここえた浜辺を照らすよ

今も過去も ずっと同じ

それこそが ふるさと高岡

うつくしい海よ

ここに残るよ

二、坂の上の 桜の道

あいの風が 磯の香をはこぶよ

にぎやかな 祭の夜には

誰もがこころおどらせる

わたがしは今日だけの特別さ

今も過去も ずっと同じ

それこそが ふるさと高岡

あたたかい日々よ

ここで笑うよ

一、国分の浜 真夏の日差し
遠泳大会の児等誓う
男岩を目ざす 平泳ぎ
小舟の太鼓 打たれ
そうれと揃い 声かける

胸のメダル 努力の証
それこそが学舎伏木
鍛えし我が身
友と集うよ

二、今年も二月十六日
創校記念の歌ひびく
地域の方の教え受け
かたかごの花優し
能高砂の巖かに

能三さんの 銅像立つ
それこそが学舎伏木
豊かな心
友と歩くよ

一、旅立つ者 聞いてほしい

これほど美しい町に出会えるか

雨晴海岸の風は

青く輝やき吹いて

僕らの心 揺らすよ

誰もがきつと思ひ出す

それこそがふるさと高岡

愛する街よ

ここで祈るよ

一、希望を胸に外に出たんだ
ここにはない何かを求めて
人にもぎわい ビルも立ち
夜も明るく輝く
全て叶うまちと信じ

誰もがきつと 心にえがく
それこそが 成功と信じて
明るい未来
夢をつかむよ

二、人の波に ビルの砂漠
孤独じゃないのに 心が乾く
都会のジャングルに負けず
心を燃やしふんばると
こきように錦を飾るよ

苦しいとき 支えてくれた
それこそが ふるさと高岡
旅する僕の
心のふるさと



一、 劔の小窓 朝日に染まり

あの日愛を誓った国分浜

男岩と女岩の姿は

二人の未来 映し

駆けた渚に 貝がらも

はまひろがおも 今は夢か

胸熱くよみがえる日よ遠い日よ

渋谷の磯

清き波よ

二、 二上山に夕日が落ちて

二人で眺めた星のまばたき

小矢部の流れ ゆるやかに

港をめざす 小舟

旅を誘う 唄声

涙にぬれた あのさきやき

帰れ再びあの日よ遠い日よ

鳥よ伝えて

はるか町へ

一、高岡駅 手をふる母や

ふるさとに 別れ告げて幾年いくとせ

列車の窓から 遠ざかる

友や 思い出の日々

今なお浮かぶ 面影

古城こじょうの空 仰あおぎながら

通学路を 汗かき急いだ

青春熱く 胸をゆらすよ

二、二上山ふたがみやま こころの里よ

海越しに 遥はるか浮かぶ立山

うるわしき町よ 高岡

夢を 未来へつなぐ

かがやく町よ 高岡

歴史と技わざ 守りながら

古き良き 町並み栄えて

希望はすに弾はずむ 明日あすに幸あれ

一、帰ってきた この町

緑と水 空気 みな美味しい

春は桜と和菓子

夏は緑とビール

古城の香りとともに

田んぼで泥遊びおたまじゃくし取った

思い出あふれだす 高岡

いつまでも暮らす

この町で

二、帰るべき この町

海鮮 ごはん みな美味しい

秋はもみじと果物

冬は雪と熱燗

立山の景色とともに

神社で鬼ごっこ サッカーして

思い出あふれだす 高岡

いつまでも暮らす

この町で

一、 ふるさとの 心に抱く
はなれし街の 面影は
清き流れの 庄川は
友と遊びし 涼やかに
今も変わらず 人たちが

やすらぎ求め 集うところ
それこそが ふるさと高岡
忘れぬ街よ
ここで育つよ

二、 やさしく吹く 北風に
立山望む岸辺 雨晴
潮風香りて 波の音
心に残る この景色
故郷の空 青々と

友に伝え 広げたい
それこそが ふるさと高岡
ほこれる街よ
ここで生きるよ

一、高岡の宝 それは歴史

万葉の時代（とき）から変わらぬ海と山

おおらかに やさしく

見守ってくれる

命そだてる町 たかおか

高岡市民 みな平等

二、高岡の宝 それは子どもたち

未来のまちをつくるため希望を語る

あかるく つよく

助け合う人と人

夢かなえる町 たかおか

高岡市民 永久（とわ）に平和

